

2003年10月30日：石垣島。バナ岳登り口の左側には畑地へと入り込む道路沿いにチョウが遊ぶのに適度な林があって、新鮮で青緑色の濃いアオスジアゲハが探雌飛翔を繰り返しているので自転車を止める。ベニモンアゲハやタイワンキチョウ、ネッタアカセセリが林縁のシロノセンダングサ花上に戯れ、リュウキュウミスジが木々の葉っぱ上を転々と移動して日当たりのいい場所に落ち着くとゆったりと羽を広げて日光浴を楽しんでいる。ウスキシロチョウも現れるが、あいかわらず速い飛翔スピードで次々と場所を変えながらバナ岳登り口側へと消える。

2003年10月31日：波照間島。ちょうど飼育主の地元婦人がヤギの様子をみに軽自動車をつけてきていて、ネットとカメラをもつ筆者に「あのむこうの角っこにチョウがいっぱい集まっているよ」と教えてくれる。遠目にもスジグロカバマダラだと分かるが、近づくにつれ、かつて与那国島で出会った大群にも匹敵するその数の多さにおどろく。畑の隅の三角地となった部分にシロノセンダングサが豊富に咲く適度の草むらがあって、そこらの花々にスジグロカバマダラやナミエシロチョウ、ネッタアカセセリなどが群れて吸蜜活動を展開しているのだ。せまく限られてはいるがまさに「蝶の楽園」といった感じで、その様子をビデオ記録として残したいといろいろ角度を変えて液晶ファインダーをのぞいてみるが、楽園というイメージの表現は難しい。畑の道路沿いにもセンダングサが豊富に花をつけており、ネッタアカセセリの数も多い。スジグロカバマダラの群れ飛ぶ中に、ひときわオレンジ色が濃いと見えるチョウが目に入る。メスアカムラサキの♀だ。翅表の大きな白い紋とムラサキの幻色光沢が美しい♂も花から花へと忙しく飛び交う。波照間島の自然環境で、食草のスベリヒユがそれほど豊富にあるようには見えなく、飛び交う個体は少ない食草をあちこち探し歩いてやっとここまでのきれいな成チョウとなったのだ、そう思うと花から花へと楽しげに飛び回るチョウがとてもいとおしく思え、いきいきとした美しい映像を精一杯記録に残そうと、作物の大豆などを踏まないように気を使いながら畑地にまで入り込んでチョウと戯れる。

2007年11月5日：石垣島野底林道。上り時点でクロマダラソテツシジミをみたセンダングサの群生する路傍を再確認していると、大型のネッタアカセセリが飛来して、きれいに羽根を広げて

夢中で花の蜜を吸い始める。求蜜中に4枚羽根を縦に広げている姿勢は格好いいジェット戦闘機を思わせるが、その雄姿をカメラに収め、標本用にネット



71105 野底林道 ネッタアカセセリ



71105 屋良部林道 ネッタアカセセリ

トにも納める。この日、屋良部林道でもまったく同じような光景を眼にする。

2012年12月4日：石垣島川平でスジグロカバマダラ、ナミエシロチョウ、オオゴマダラ、アマミウラナミシジミなどが多く飛び交うなか、ネッタアカセセリの開翅シーンにしっかりフォーカスを合わせた記録撮影をする。



Dec. 4, 2012 12:04